

【Pelaskos】

説明

解説

■ 神殿

嵐の神殿、小神。

鏡の海の「神殿」、小神。

■ 称号、職能

海漁の神。ペラスコスの民には創始者と呼ばれる。

■ 概略

嵐の神殿の漁の神で、双子のポヴェリと共にその技を学び、部族のために漁を行っていた。海が引くとペラスコスはその後を追って行き、“大工”オースタンが造ったボート「(Clever Eyes)」で海に出て漁を行った。彼は内陸に残ったポヴェリとは道を違え、海の漁の神となった。

ペラスコスについては嵐の神殿で語られるものと鏡の海の「神殿」で語られるもの、異なる2つの神話がある。

- ヒョルト人の神話（嵐の神殿）では次のように語られる。

海にたどり着いたペラスコスは新しい民に会い、彼らに漁の技を教えた。また海のデーモンを釣り上げ、民が海の生物を獲ることを認めさせ、その娘を嫁としてもらい受けた。娘は海の一族から引き離されたことでペラスコスを恨み、絶え間なくがみがみ言ってペラスコスを苦しめた。

- ペラスコスの民の神話（鏡の海の「神殿」）では次のように語られる。

海を追って来たペラスコスは海岸に住み着き、漁を行った。彼はそこで牡蠣の娘に出会い、長い求愛の後、結婚した。彼らの子供はペラスコスの民の始祖となった。また、ペラスコスは右腕諸島で父ディロスを見つけ、喜びの歌を歌い踊った。

■ 異界

ペラスコスの船着場は嵐の領域の終わりなき海【Endless Sea】に入ったところ、エンギジ河の河口近くにある。

ペラスコスの小屋は鏡の海の「神殿」の領域の亀の上がり場【Turtle Landing】にある。

組織

■ 聖日

■ 大聖日

■ 相、カルト

嵐の神殿では単独の神として信仰される（オーランスの下位カルトになることもあり得るか？）

鏡の海の「神殿」ではディロスの下位カルト。

■好まれる神友

ボート、おそらく釣具も。

業績

・（その神のなした業績を一行で書き表そう。その業績は単独で記事にしよう）

近親

■両親

ヒョルト人の神話ではオーランスが父親とされることもある。

ペラスコスの民の神話ではディロスが父親とされる。

■兄弟姉妹

双子の兄弟にボヴェリがいる。

■配偶者

ヒョルト人の神話では、海の悪魔オスキッボスの娘、イルリアド。

ペラスコスの民の神話では、ファラリンソールの娘、牡蠣の娘エーネンナ。

両者の関係は不明。

■子

エーネンナとの間に息子ソラスコスがいる。

神知者分類法

（ルーンクエスト時代の所持ルーンを書こう）

参考文献

- ・『グローランサ神名録』 p.-
- ・『Storm Tribe』 p.226-227
- ・『Men of the Sea』 p.24-25